

戸田康之さん『じゃんけん』（6月7日配信）

こんにちは。戸田です。

今日のお話は、じゃんけんのやり方についてです。

私は今、ろう学校の幼稚部で働いています。全国的にそうなのですが、以前からろう学校の幼稚部にはろうの先生がほとんどいませんでした。聴者の先生ばかりでした。中学部や高等部にはろうの先生が何人もいますが、幼稚部は本当にわずかです。なので、ろう学校の幼稚部は、聴者の先生発信の聴者文化の影響が濃いです。そのことを良くないと言いたいのではありません。幼稚部には聴者の先生がたくさんいますから、自然に聴者文化が浸透したんです。中でも、じゃんけんのやり方について気づいたことがあります。

私が勤めるろう学校幼稚部には、以前からのじゃんけんのやり方があります。このようにやります。手拍子を2回した後に出すんです。私が幼稚部に着任した時から子どもたちは普通にそのやり方をしていました。私もその時は、ああ、これが子どもたちなりの方法なんだなと思って自分もそれに合わせて手拍子を使ったじゃんけんをしていました。これが幼稚部の当たり前なんだと思い、特に何も思わなかったんです。

ですが先日、幼稚部の先生が研究授業で集まった時に、「幼稚部のじゃんけんは、なんであのやり方になったんだろうね」という話が出たんです。そう言われて初めて自分も、そういえばそのやり方でじゃんけんしている大人のろう者を見たことがないなと思いました。私もそうです。確かに私も、普段はじゃんけんの時に手を叩いたりはしません。手を出したり引っ込めたりしてタイミングを取りながらじゃんけんをしています。なのに幼稚部の子たちは手拍子を使っているんです。

うちの学校だけじゃなく、他のろう学校の幼稚部にも、どんなじゃんけんをしているのか聞いてみました。すると、同じように手拍子を使う学校もあれば、脚を2回叩いてじゃんけんをするという学校もありました。必ず何かを叩いてじゃんけんしていることが分かって、なぜこうなったのかよけい疑問に思いましたが、もしかすると聴者の先生が、子どもたちは「じゃんけんぽん」という声でタイミングをとれないからと代わりに思いつき、それが広まっていったんじゃないかと思いました。「じゃんけんぽん」のリズムを合わせる方法として思いついたのではないかと思うんです。

聴者の先生が子どもたち同士でじゃんけんのタイミングを合わせる方法として考えついたやり方が広まっていったのだとしたら、それはそれで良いと思います。ですが、子どもたちが大きくなって同じやり方をしている人は全くいません。もし、この手拍子を使うじゃんけんがろう者にとってしっくりくるのであれば、大人になっても同じ方法でじゃんけんをするはずですが、誰も使っていません。それは、手拍子を使う方法がろう者には合わないということです。タイミングが合わせづらいんです。だから、ろう者の子どもたちにとっていちばんや

りやすいじゃんけんの仕方を考える必要があるなと思いました。

幼稚部の子たちは手拍子を使う方法でじゃんけんをしています。小学部以上の子たちはそのやり方を使わなくなっています。やり方が彼らには合わないんです。だから手拍子のじゃんけんが廃れていきます。中学部も高等部の子たちも使っていません。

中高の子どもたちを誘ってじゃんけんをしてみました。すると手拍子は使わず、手の出し引きでタイミングをとってちゃんとじゃんけんができています。わざわざ手を叩く必要もありません。目を見合わせ、肩の動きでお互いのリズムを合わせてじゃんけんができていました。

また小学部の1年生を見かけた時にもじゃんけんを仕掛けてみました。小1ですから、ついこの間まで幼稚部だったわけです。手拍子のじゃんけんが身についています。だからこの子は手拍子でじゃんけんをするだろうと思っていました。じゃんけんを誘ってみると、やり方が変わっていたんです。2回手を叩くやり方ではありませんでした。どんな方法かと言うと…こんなやり方でした。幼稚部にいた時には2回手拍子だったのに、小学部に上がったならそうじゃありません。手を引きながら小刻みに手を叩いてじゃんけんを出すんです。手を叩いている間も目は見合わせていて、手を出すタイミングをはかりながらじゃんけんをしていました。

あらためて、2拍のやり方はろうの子どもたちにはやりにくいんだなと思いました。ろう学校幼稚部のじゃんけんのやり方は、2拍にこだわらず、ろうの子どもたちがやりやすいような、目を見てタイミングを合わせるやり方でもできると思います。

もし、ろう学校の幼稚部の先生がこれを見ていたら、ぜひ幼稚部で、ろうの子どもたちがやりやすいじゃんけんを新たに考えてみるといいと思います。私も一緒に考えたいと思います。